

第 55 回（2024 年度）地域安全学会研究発表会（秋季）に参加しました （2024/11/16-17）

テーマ：災害科学

場 所：静岡県地震防災センター（静岡県静岡市）

11月16日（土）～17日（日）の2日間、地域安全学会の春季研究発表会が、小千谷市総合産業会館サンプラザを会場に開催されました。地域安全学会は、研究者、技術者、国や地方自治体の実務家などによる、自然災害や人為災害を対象として地域の安全問題に関する研究を行う学会です。当研究所からは、5編の査読論文（うち筆頭著者4編、学生による主著は3編）、4編の一般論文の研究発表を行いました。査読論文を発表した津波工学研究室・学部4年生の星美沙希氏（指導教員：津波工学研究分野・今村文彦教授，研究指導教員：防災社会推進分野・佐藤翔輔准教授）が、優れた査読論文発表（指導を受ける立場にある原則40歳未満の筆頭著者が対象）に対して贈られる論文奨励賞に選定されました。授賞式は来年5月に行われる予定です。当研究所から論文奨励賞が選出されるのは4年連続です。発表論文は次の通りです。

【査読論文】

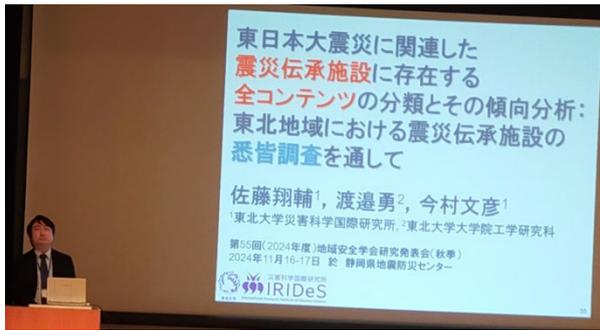
〔論文奨励賞〕星美沙希，佐藤翔輔，今村文彦：津波避難の阻害・促進要因の体系的整理および大雨災害との比較：東日本大震災発生以後の既往研究の系統的レビューから
金山侑真，村尾修ら：東日本大震災後の災害危険区域における土地利用の変遷と活用状況：宮城県被災地を対象として
三上雄大，佐藤翔輔，今村文彦ら：津波避難行動分析における歩行型 VR 活用の可能性：バルーン型避難標識の誘導効果に着目して
秋元康男，佐藤翔輔ら：自治体職員の避難所運営に関する経験の伝承手法の設計と実践：宮城県気仙沼市における災害記録資料を活用した座学と対話による研修事例
佐藤翔輔，今村文彦ら：東日本大震災に関連した震災伝承施設に存在する全コンテンツの分類とその傾向分析：東北地域における震災伝承施設の悉皆調査を通して

【一般論文】

渡邊勇，佐藤翔輔，今村文彦：震災伝承施設の見学パターンと意識・行動変容効果の関係：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館の事例
成田峻之輔，佐藤翔輔，今村文彦ら：津波避難場所表示媒体の効果に関する VR 空間での避難行動実験：バルーン型避難標識の確立に向けて
松川杏寧，佐藤翔輔ら：地域安全学会夏の学校 2024—基礎から学ぶ防災・減災—地域安全学領域における若手人材育成 その8
後藤隆昭，佐藤翔輔ら：東日本大震災・原子力災害の伝承活動の持続的展開に関する課題と方策

（※著者名は、筆頭著者と研究所構成員のみ記載。下線は研究所構成員。）

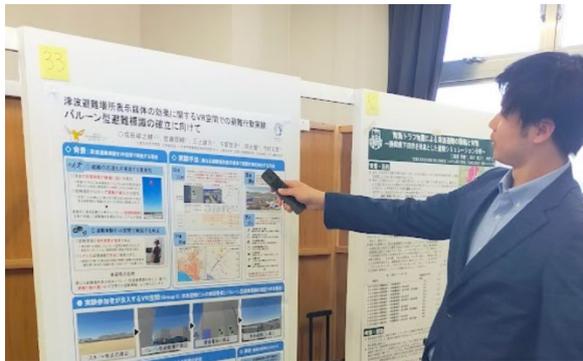
文責：佐藤翔輔（防災社会推進分野）
（次頁へつづく）



発表の様子（佐藤翔輔准教授）



参加学生による発表（査読論文，口頭）



参加学生による発表（一般論文，ポスター）



論文奨励賞の受賞内定のコメント
 （星美沙希氏，懇親会にて）